

新型コロナ情報 [こちらで読めます](#)

群馬) 尾瀬、コロナ警戒しつつ山開き 入山、23日から

新型コロナウイルス

張春穎 2020年5月22日 10時30分

シェア

ツイート

ブックマーク

スクラップ

メール

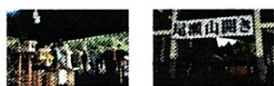
印刷

list

0



関越道の沼田インターチェンジから、尾瀬の玄関口である片品村戸倉に向かう道路沿いには「尾瀬自粛お願いします」という看板が設置されていた＝2020年5月21日午前8時56分、群馬県沼田市、張春穎撮影



群馬、福島、新潟、栃木の4県にまたがる尾瀬国立公園の山開きが21日、尾瀬の玄関口にあたる群馬県片品村戸倉で開かれた。23日には鳩待峠口に通じる県道の通行止めが解除され、群馬県側からの入山が可能になる。今季は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、登山口への乗り合いタクシーに仕切りを設けたり、山小屋の営業開始を7月に遅らせたりするなど、異例の形で夏山シーズンを迎えることになった。

山開きは群馬、福島、新潟3県の持ち回りで、40回目の今回はハイカーの約6割が入山する鳩待峠口に通じる戸倉地区で開かれた。交流施設「尾瀬ぶらり館」であった式は規模を縮小し、地元関係者ら14人が山の安全を祈った。参列者からは「自然を満喫して欲しいが複雑な気持ちだ」という声も聞かれた。

例年は開山前の大型連休などに訪れるハイカーも少なくない。今季は緊急事態宣言の外出自粛要請を受けて、尾瀬保護財団や環境省が入山自粛を要請。通行止めを延長したり、駐車場を閉鎖したりしていた。

関係者の話し合いでは開山に慎重な意見も少なくなかったが、乗り合いタクシーやバスは乗車人数を減らし、週末は村や県の職員らがハイカーに注意喚起の声掛けをするなどして感染防止対策を取ることにした。大清水口と戸倉の駐車場も営業を開始し、主な公衆トイレも使えるようになる。

ただ、山小屋や売店の営業開始は例年の4月下旬から7月に遅らせる。山小屋の営業がないことやヘリが飛ばない可能性があることで、救助態勢も例年より難しくなる恐れもある。

る。福島県側の登山口になる檜枝岐村では、御池駐車場の開業と沼山峠に向かうバスの運行開始は7月以降の予定。村内の宿泊施設の6月末までの営業自粛も決めている。

片品村の梅沢志洋（ゆきひろ）村長は山開き後、「しばらくは自粛してほしいのが本音。その都度判断しながら関係者が一緒になって難局を乗り切りたい」と話した。

関係者らによると、今年の尾瀬は降雪量が例年より少なく、尾瀬ヶ原の木道はすでに雪面から顔を出し、下ノ大堀の撮影ポイントではミズバショウが咲き始めているという。一方、入山者の減少でシカの食害が増える懸念があるという。

尾瀬の入山者は減少傾向が続き、2019年は約24万7700人で1989年の調査開始以来最低だった。今年はさらに減る可能性がある。（張春穎）

尾瀬の山小屋や休憩所の営業は7月1日以降に始まることになった。全25施設による尾瀬山小屋組合が決めた。20カ所の山小屋のうち17施設が消毒や換気など新型コロナウイルス対策の準備を進めていくという。ただ、2施設は感染リスクを理由に今季は休業する。

例年、主要な登山口の鳩待峠口（群馬県片品村）への冬季通行止めが解除される4月下旬から大型連休後にかけて順次営業を始める。しかし今季は緊急事態宣言などを受けて開業が延期になっていた。

個室化が進む尾瀬の山小屋では、各施設が日本旅館協会などが設けた宿泊施設の対応ガイドラインに準じて、感染リスクを高める「3密」（密閉・密集・密接）を避ける環境整備や、客と従業員の安全策を講じる。環境面から使用を自粛していた手洗いのせっけんも置く。清水秀一組合長は「山小屋同士で情報を共有して、尾瀬から感染者を出さないという強い気持ちで対策を取る」と話した。

一方、感染の懸念があるとして尾瀬小屋（見晴地区）は今季休業を決め、尾瀬ロッジ（山ノ鼻地区）は休業の方針。尾瀬小屋は症状が重い場合に対応できる医療機関がなく、除菌や消毒用品の確保も難しいことを休業の理由に挙げた。尾瀬ロッジの萩原久美枝さんは「スタッフの安全確保も含め、対策をきちんと取らないと開けられない」と話す。